

第1期伊豆の国市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価書

(平成30年度実績時点の評価)

1 評価の方法

(1) 評価の取組

平成27年度に作成した「伊豆の国市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、「第1期総合戦略」という)の着実な推進を図るため、平成30年度実績時点の重要業績評価指標(KPI)による事務事業の内部評価及び検証を行った。

また、識見を有する者で構成される伊豆の国市行財政改革推進委員会にて外部評価を行うものとする。

なお、今回まで(過去4年間)の評価は、令和2年度から令和6年度を計画期間とする第2期総合戦略策定に反映させていくこととし、第1期総合戦略の最終評価は、次年度実施したうえで第2期総合戦略を必要に応じて改訂するものとする。

(2) 評価区分

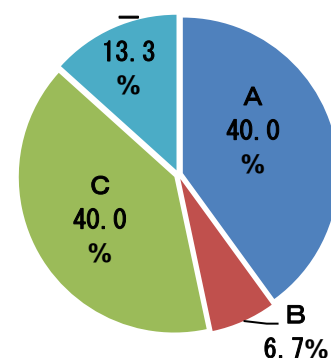
区分	判断基準
A	「実績」が「目標値」以上のもの
B	「実績」が「仮定値(期待値)」以上「目標値」未滿のもの
C	「実績」が「基準値」を超え「仮定値(期待値)」未滿のもの
D	「実績」が「基準値」以下のもの
—	統計値が発表前または当該年度に調査がなかったものなど

※ 仮定値:目標値(平成31年度/令和元年度)に達成するものと仮定して、基準値から目標値に向けて各年で均等に推移した場合の数値

2 基本目標ごとのKPIに対する内部評価及び検証(結果)

(1) 伊豆の国市にしごとをつくる(全15項目中)

平成30年度実績時点の評価	A	6項目(40.0%)
	B	1項目(6.7%)
	C	6項目(40.0%)
	D	0項目(0%)
	—	2項目(13.3%)



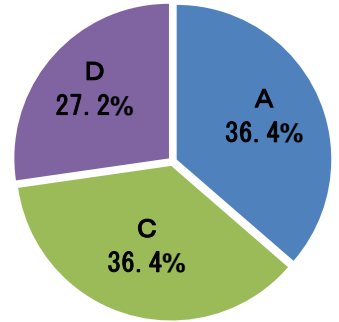
【取組結果と分析】

評価において、B以上(「実績」が「仮定値(期待値)」以上「目標値」未滿のもの)が46.7%と約半数を占め、D評価(「実績」が「基準値」を下回るもの)がないため、「概ね順調に進んでいる」と考えられる。

基本目標のKPIでは、「事業所数」はC評価(「実績」が「基準値」を超え「仮定値(期待値)」未滿のもの)であるが、「事業所従業者数」はA評価(「実績」が「目標値」以上のもの)であるため、引き続き取組を推進していく。

(2) 伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる（全 11 項目中）

平成 30 年度実績時点の評価	A	4 項目 (36.4%)
	B	0 項目 (0%)
	C	4 項目 (36.4%)
	D	3 項目 (27.2%)
	—	0 項目 (0%)

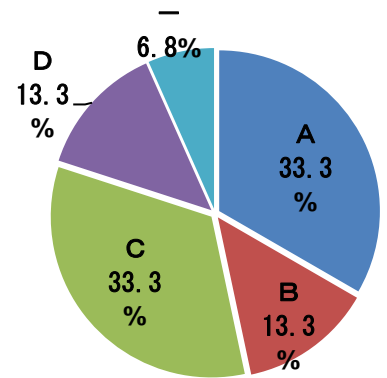


【取組結果と分析】

評価において、B以上が 36.4%に留まっており、さらに基本目標のK P Iである「社会動態数」及び「観光交流客数」が、ともに基準値を下回るD評価であることから、「やや遅れている」と考えられ、取組の強化や見直しが求められる。

(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる（全 15 項目中）

平成 30 年度実績時点の評価	A	5 項目 (33.3%)
	B	2 項目 (13.3%)
	C	5 項目 (33.3%)
	D	2 項目 (13.3%)
	—	1 項目 (6.8%)



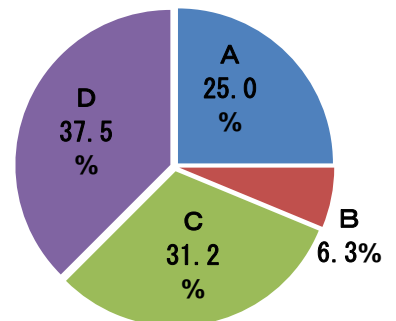
【取組結果と分析】

評価において、B以上が 46.6%と約半数を占め、「保育園の待機児童数」も 4 月 1 日時点で、「0 人」を達成していることから、「概ね順調に進んでいる」と考えられる。

ただし、基本目標のK P Iでは、「0-14 歳の年少人口」及び「子育てや子育て世帯への支援満足度」が、ともにC評価であることから、取組の強化や見直しが求められる。

(4) 時代に合った住みよいまちをつくる（全 16 項目中）

平成 30 年度実績時点の評価	A	4 項目 (25.0%)
	B	1 項目 (6.3%)
	C	5 項目 (31.2%)
	D	6 項目 (37.5%)
	—	0 項目 (0%)



【取組結果と分析】

評価において、B以上が 31.3%に留まっており、さらに基本目標のK P Iである「住みやすさ満足度」がD評価、「お達者度」が男女ともC評価であることから、「やや遅れている」と考えられ、取組の強化や見直しのみならず、推移の見通しや当初の目標値の設定が適切であったのか検証する必要がある。

3 外部評価結果

(1) 実施一覧

- ① 評価年度：平成 28 年度／平成 27 年度実績
開催日時：平成 28 年 12 月 12 日
評価団体：総合計画審議会
評価結果： 基本目標 1 は、概ね順調に進んでいる
基本目標 2 は、概ね順調に進んでいる
基本目標 3 は、概ね順調に進んでいる
基本目標 4 は、やや遅れている
- ② 評価年度：平成 29 年度／平成 28 年度実績
開催日時：平成 29 年 11 月 21 日
評価団体：行財政改革委員会
評価結果： 基本目標 1 は、やや遅れている
基本目標 2 は、概ね順調に進んでいる
基本目標 3 は、概ね順調に進んでいる
基本目標 4 は、やや遅れている
- ③ 評価年度：平成 30 年度／平成 29 年度実績
開催日時：平成 30 年 12 月 13 日、平成 31 年 1 月 31 日
評価団体：行財政改革委員会
評価結果： 基本目標 1 は、概ね順調に進んでいる
基本目標 2 は、やや遅れている
基本目標 3 は、概ね順調に進んでいる
基本目標 4 は、概ね順調に進んでいる

(2) 基本目標ごとの主な意見（開催年度：平成 30 年度委員会より）

基本目標 1 伊豆の国市にしごとをつくる	仕事をつくることは市最大の目標である。現時点で企業数や従業員数の目標値は下回っているが、企業の求人状況を把握し、一層の政策推進に努めること。
基本目標 2 伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる	移住定住では、市に戻ってこない方の要因について調査が必要であるが、引き続き U ターンなど必要な施策を実施すること。情報発信が非常に重要となる。年代や地域の魅力について、多面的な情報発信を積極的に行うこと。
基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	子育て支援は人口減少にとって、重要有効であり、一層の充実が必要である。特に児童に対する相談システムの充実（心理職等の専門職の導入）に努めること。
基本目標 4 時代に合った住みよいまちをつくる	時代に合った住みよいまちをつくるにあたっては、情報伝達システムの充実と横断的な連携による安全なまちづくりのシステムの構築が重要である。また、自助、共助、公助の面からも民生委員の確保に努めること。